

# 4 . 平成 1 6 年度事業計画書

## 1 . 概 況

本会に限らず産業界会員の学会離れが顕著である。如何にして会員減を留めるか、如何にして会員を増やすかではなく、学会が社会に（産業界に）如何にして貢献できるかを考え実践することが肝要である。産業界も納得する貢献ができた時初めて、結果的に会員が増加していくことになる。社会への貢献とは、具体的には日本発の情報処理新技術を提供すること、情報処理技術を組み込む産業に確立されたソフトウェア開発技術を提供すること、および日本の情報処理教育の向上を図ることである。そのために何をなすべきかを考え事業計画としていく。以下に重点活動を示す。

(1) 産業界への貢献と会員サービス、(2) 研究活動の展開、(3) 教育活動、(4) 英文論文誌の発行と国際化の推進

### 1.1 産業界への貢献と会員サービス

- (1) 実務家が積極的に参画できる活動とは何かを追求し、新たに「技術応用フォーラム」として具体的な活動を展開する。さらに、そのことが研究者の学術研究活動をも高揚させ、双方がコミットすることでシナジー効果をもたらすことを目指す。
- (2) 賛助会員にとってのメリットを明確にし、産業界各企業が積極的に学会活動に参画することを目指す。
- (3) JISA 等の関連団体との協力等により、伝統的なコンピュータ産業以外の新たな分野の拡大と人材の取り込みを図る。
- (4) 会長直轄の学生会員増強タスクフォースを設け新たな学生会員の獲得を図り、学会基盤の拡大を目指す。
- (5) 教育活動等を通じた社会貢献、および学会のプレゼンス向上に通じる施策の展開を目指す。
- (6) 電子化の推進（ホームページ、電子図書館、メールニュース、マネジメントシステムの充実等）により各種情報発信（英文を含む）の一層の充実を図る。特に、本会の 40 年間に及ぶ刊行物（コンテンツ）は研究開発の貴重な資源であり、これを活用した「総合デジタルライブラリ」の構築を目指す。
- (7) アンケートへの回答に沿った会員サービスの充実を図る。

### 1.2 研究活動

研究活動（分野）の拡がりを目指して、新規研究グループ等のインキュベーションを企画する。また、将来の研究活動の母体となる学生会員の獲得と研究会への参加を容易にする方法を立案する。

研究者への支援としては、ジャーナル・トランザクション・研究報告等の電子投稿を推進する。

### 1.3 教育活動

#### (1) アクレディテーション

昨年度学協会の審査費用は 50 万円 / 件であったが、今年度から 95 万円 / 件となり、総経費からみてようやく損益分岐点を迎えると考えられる。

高等教育機関と学協会が多大な精力を費やして実施しているアクレディテーション制度は、卒業する工学系学生が社会の要求水準を満たしているかどうかを JABEE により認定するものである。今年度は審査校の数も増大し、投入されるマンパワーも相当量の増加となるが、なお意欲ある大学を中心とするアクレディテーションの最初の輪ができた段階にある。この大学側の輪を広げていく活動や、その卒業生を受け入れる企業側の関心を深めてもらうための活動も、種々企画し実施していく。

#### (2) 生涯教育、資格制度

JABEE 認定終了生の技術士一次試験免除に伴い、技術士の責務である CPD ( Continuing Professional

Development) に対し学会としてどのように対応していくかを生涯教育委員会(資格制度委員会も協力)を中心に明確にする。

#### 1.4 英文論文誌と国際化

##### (1) 英文論文誌

国際化の重要な一歩としての論文の英文化は論を待たない。財務状況に照らした英文論文誌の発刊手段等を検討し、今年度実現に向けて推進する。

##### (2) 国際的な情報発信

学会をグローバル化する国際的な情報発信のためには、英文論文誌のみならず、インターネット時代に相応しい英文ホームページの充実が必要であるため、担当理事を明確にし、何を英文化すべきか、英文化されていない活動は何かといった運営の管理等、当該理事が責任を持ってその推進に当る体制を目指す。

## 2. 会員の異動

会員数を次の通り予定する。

	15年度末	入 会	退会・除名	16年度末
名誉会員	38	(正 名誉) 2	0	40
正 会 員	21,689	800 (学 正) 600	(除名) 750 (正 名誉) 2 (退会) 1,400	20,937
学生会員	1,958	1200	(除名) 18 (学 正) 600 (退会) 190	2,350
準会員	47	10	(除名) 4 (退会) 4	49
会員合計	23,732	2,612	2,968	23,376
賛助会員	331	10	(退会) 8	333
(上段:社数 下段:口数)	451	10	(退会) 8	453

\* 正会員には終身会員を含む。

## 3. 機関誌編集活動

### 3.1 会誌「情報処理」(月刊)

#### (1) コンテンツ

前年に引き続き、編集長のイニシアティブを発揮しやすい体制、編集委員会主導の内容構成により会誌の充実に努める。

#### (2) 広報活動

会誌、IPSJメールニュース、Webサイトの連携を深め、広報活動に一層努力する。

### 3.2 「情報処理学会論文誌」全般

- (1) 「情報処理学会論文誌（ジャーナル）」の月刊体制の維持  
一般論文，特集論文を含めた月刊体制を維持する。
- (2) 論文審査方針，審査期間の検討と強化  
論文の査読基準，採録率，審査体系を整備して，投稿から掲載までの審査期間の短縮を検討，実施する。
- (3) 編集企画体制の強化  
特集企画グループによる特集号の企画を増大することで，一般号，特集号の編集企画体制を整備し，トランザクションとの情報交換，協調をより円滑に進める。
- (4) 論文投稿システムの開発  
論文の電子投稿，査読を迅速かつ適確に行うためのシステムを開発し，運用を開始する。
- (5) 発信方法の検討  
ジャーナル/トランザクションの位置づけなど，発信方法の検討を行う。
- (6) 英文論文誌  
英文論文誌の発刊実現にむけて鋭意努力する。

### 3.3 著作権

著作権に関する協定に参加した学会をコアにして引き続き検討する。

## 4．出版活動

- (1) 教科書シリーズの継続発行  
情報処理教育委員会と連携し，新規カテゴリーを加え，年3～5冊のペースで発行する。
- (2) 英文図書"Advanced Information Technology Series"の継続発行  
年4冊程度のペースで発行する。オンライン出版も視野に入れる。
- (3) 歴史特別委員会
  1. 歴史的資料の収集・整理・保管を引き続き行う。
  2. 「コンピュータ博物館」の充実
    - ・歴史的コンピュータの年表および写真，関連文献等の追加
    - ・オーラルヒストリーの追加
    - ・説明文などの英文化
  3. 歴史関係記事の掲載方法の検討

## 5．事業活動

下記の各催しについて，活性化と財務改善を検討のうえ実施する。

### 5.1 第3回情報科学技術フォーラム（FIT2004）

会期：平成16年9月7日（火）～9日（木），会場：同志社大学（京田辺キャンパス）

## 5.2 第 67 回全国大会

会期：平成 17 年 3 月 2 日（水）～ 4 日（金），会場：電気通信大学

## 5.3 連続セミナー2004

統一テーマ：安全・快適な社会を築く情報技術，会場：東京電機大学または工学院大学（予定）

	開催時期	各回テーマ	コーディネータ
第 1 回	平成 16 年 6 月	「Web コントロール技術」	梅村恭司（豊橋技科大）
第 2 回	平成 16 年 7 月	「spam 撃退術」	前野年紀（東工大）
第 3 回	平成 16 年 9 月	「ガーベジコレクション技術の基礎」	近山 隆（東大）
第 4 回	平成 16 年 10 月	「地球シミュレーター」	金田康正（東大）
第 5 回	平成 16 年 11 月	「ヒューマノイド技術最前線」	稲葉雅幸（東大）
第 6 回	平成 16 年 12 月	「IC タグ」	増井俊之（産総研）

## 5.5 プログラミング・シンポジウム

### (1) 第 46 回プログラミング・シンポジウム

会期：平成 17 年 1 月 11-13 日，会場：ウェルシティ湯河原

### (2) 夏のプログラミング・シンポジウム

会期：平成 16 年 8 月 30 日～ 9 月 3 日のうちの 3 日間（仮），会場：函館（仮）

テーマ：「プログラミングの原点 hacker's delight」（仮）

### (3) 情報科学若手の会

会期：平成 16 年 8 月下旬，会場：未定

## 6 . 技術応用活動

### 6.1 「技術応用フォーラム」の創設

実務家にメリットのある新たな活動の場として、「技術応用フォーラム」を創設する。秋までに 1～2 企画の開催を目指し，以降，順次，新たな企画の開催を予定する。

### 6.2 「技術応用フォーラム」の企画運営

技術応用フォーラムの企画運営のため技術応用運営委員会を設置する。立上げの 16 年度は以下の構成で推進し，引続きの円滑な運営のために関連規程等を 16 年度中に整備する。

委員長：徳田英幸（慶大），副委員長：青山幹雄（南山大），

委員：調査研究担当理事の内から 1 名，上原三八（富士通研），丸山 宏（日本 IBM），

その他委員長が指名する若干名

運営サポートのためのアドバイザー：各領域委員長，事業担当理事

### 6.3 「技術応用フォーラム」の企画運営の留意点

技術応用フォーラムの企画運営に当たっては次の点に留意する。

(1) 実務家のメリットやモチベーションに配慮して，テーマやターゲット層を企画する。

(2) 従来学会形式のイベント開催には拘らず，実務家が前向きに参加できるように，先端的なテーマで，自由で楽しい，多くの人を引き付けられるような開催とする。

(3) 実務家から現場の情報が提供されることで，大学や企業の研究者・技術者をはじめ関連研究会の活動も活性化されるようにする。

- (4) フォーラムの開催をその後の学会活動にリンクさせることを念頭に置く（例えば、新しい研究会の設立、新分野の取込み、成果の論文発表、シンポジウムの定例開催化など）。
- (5) 他のイベントや、外部団体（JISA, IPA/SEC, コンソーシアム, 企業, 大学など）との協調により、周知・参加者収集等の相乗効果を得られるようにする。

## 7. 調査研究活動

### 7.1 研究会, 調査委員会, 研究グループの活動計画

次の6点を重点事項として取り組む。

- (1) 新規分野の開拓
- (2) 学生会員の取込み
- (3) 領域制, 研究活動（研究グループ制度の弾力化など）の見直し
- (4) トランザクション（研究会論文誌）, 研究報告のWeb化（電子化委員会との連携）推進
- (5) 調査研究のWebページの強化（研究会への案内として）
- (6) 関連諸活動との連携と協調（FIT, 全国大会, 国際等）の強化

### 7.2 領域委員会（3）

3つの領域に対応して本年度も以下の領域委員会を設け、研究会活動の活発化を図る。

- (1) コンピュータサイエンス領域委員会
- (2) 情報環境領域委員会
- (3) フロンティア領域委員会

### 7.3 研究会（33）, 研究グループ（1）

以下の研究会, 研究グループにより研究会活動を推進する。

#### [ コンピュータサイエンス領域 ]

- ・研究会（9）（研究会名の括弧内は英略称）

データベースシステム（DBS）, ソフトウェア工学（SE）, 計算機アーキテクチャ（ARC）, システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS）, システムLSI設計技術（SLDM）, ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）, プログラミング（PRO）, アルゴリズム（AL）, 数理モデル化と問題解決（MPS）

#### [ 情報環境領域 ]

- ・研究会（15）

マルチメディア通信と分散処理（DPS）, ヒューマンインタフェース（HI）, グラフィクスとCAD（CG）, 情報システムと社会環境（IS）, 情報学基礎（FI）, オーディオビジュアル複合情報処理（AVM）, グループウェアとネットワークサービス（GN）, 分散システム/インターネット運用技術（DSM）, デジタル・ドキュメント（DD）, モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL）（名称変更）, コンピュータセキュリティ（CSEC）, 高度交通システム（ITS）, 高品質インターネット（QAI）, システム評価（EVA）, ユビキタスコンピューティング（UBI）

- ・研究グループ（1）

放送コンピューティング（BCC）

#### [ フロンティア領域 ]

- ・研究会（9）

自然言語処理 (NL), 知能と複雑系 (ICS), コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM), コンピュータと教育 (CE), 人文科学とコンピュータ (CH), 音楽情報科学 (MUS), 音声言語情報処理 (SLP), 電子化知的財産・社会基盤 (EIP), ゲーム情報学 (GI)

#### 7.4 トランザクション (研究会論文誌) の発行と計画

発行の安定性と持続性, ジャーナルとの協調, 発行部数拡大を目標に, 以下の 5 誌の発行を計画し, このほか新規発行計画を促進する。

・プログラミング (PRO)	年間発行回数: 4
・数理モデル化と応用 (TOM)	年間発行回数: 3
・データベース (TOD)	年間発行回数: 4
・コンピュータビジョンとイメージメディア (CVIM)	年間発行回数: 2
・コンピューティングシステム (ACS)	年間発行回数: 4

#### 7.5 シンポジウム・講習会等 (21 件)

シンポジウム・講習会等名	主催研究会略称	期 間	場 所
先進的計算基盤システム シンポジウム SACSIS 2004	ARC,OS,AL, PRO,HPC	H16. 5.26 (水) ~ 28 (金)	札幌コンベンション センター
マルチメディア,分散,協調とモバイル (DICOMO 2004)シンポジウム	DPS,GN,DSM,MBL,CS EC,ITS,QAI,UBI	H16. 7. 7 (水) ~ 9 (金)	雲仙温泉ホテル東洋 館 (長崎)
DA シンポジウム 2004	SLDM	H16. 7.21 (水) ~ 23 (金)	遠鉄ホテルエンパイ ヤ (浜松)
オブジェクト指向 2004 シンポジウム	SE	H16. 8.18 (水) ~ 20 (金)	未定 (東京)
第 2 回エンタテインメントコンピュー ティングワークショップ	GI	H16.8.20 (金) ~ 22 (日)	公立はこだて未来大 学
情報教育シンポジウム	CE	H16. 8.28 (土) ~ 30 (月)	ホテル清風園 (長野)
組込みソフトウェアシンポジウム 2004 (ESS2004)	SE	H16.10.14 (木) ~ 15 (金)	未定 (東京)
コンピュータセキュリティ シンポジウム 2004	CSEC	H16.10.20 (水) ~ 22 (金)	北海道大学
MPS シンポジウム	MPS	H16.10.21 (木) ~ 22 (金)	名古屋大学
SIG-GN ワークショップ 2004	GN	H16.11.11 (木) ~ 12 (金)	未定 (鬼怒川)
第 9 回ヒューマンインタフェース プロフェッショナルワークショップ	HI	H16.11.18 (木) ~ 20 (土)	未定 (屋久島)
第 9 回ゲームプログラミング ワークショップ	GI	H16.11. (未定)	箱根セミナーハウス
マルチメディア通信と分散処理 ワークショップ	DPS	H16.12. 1 (水) ~ 3 (金)	和倉温泉ホテル海望 (予定)
データベースと Web 情報システムに 関するシンポジウム DBWeb2004	DBS	H16.12. 2 (木) ~ 3 (金)	日本科学未来館
コンピュータシステム・シンポジウム	OS	H16.12. 9 (木) ~ 10 (金)	つくば国際会議場
分散システム / インターネット 運用技術シンポジウム	DSM	H16.12. 9 (木) ~ 10 (金)	広島市まちものづく り市民交流プラザ
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2004)	CH	H16.12.17 (金) ~ 18 (土)	立命館大学

高度交通システム 2005 シンポジウム	ITS	H17. 1.14 (金)	NII (一ツ橋)
2005 年情報学シンポジウム	FI	H17. 1.17 (月) ~ 18 (火)	日本学会会議講堂
2005 年ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2005)	HPC	H17. 1.20 (木) ~ 21 (金)	未定
チュートリアル : IS	IS	H17. 1. (未定)	未定
インタラクシオン 2005	HI, GN	H17. 3. 3 (木) ~ 4 (金)	未定

## 7.6 小規模国際会議 (2 件)

- ・ International Symposium on Ubiquitous Computing Systems (UCS2004)

H16.11. 8(月)~9 (火) 慶應大学三田キャンパス

- ・ Second International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2005)

17. 1. (未定) 未定 (京都)

## 8 . 教育活動

### 8.1 アクレディテーション

- (1) 日本技術者教育認定機構 (JABEE) の活動に参画し、本審査を実施する。また、審査員養成、受審校に対するコンサルテーションの体制を整え、セミナーを開催する。
- (2) コンピュータサイエンス (CS)、ソフトウェア工学 (SE)、情報システム (IS) 分野について、認定基準の整備を続ける。また、財政基盤について JABEE と検討を進める。
- (3) 本来の受益者であるはずの企業がアクレディテーションに積極的に参画するためには学会として何をなすべきかを明確にする。

### 8.2 カリキュラム

- (1) コンピュータサイエンス (CS) の中核部分をコンピュータ工学 (CE)、ソフトウェア工学 (SE) と情報システム (IS) との関連で明らかにする。
- (2) 初等・中等教育における情報教育とともに、これに接続する大学における一般情報教育についても引き続き文部科学省に提言を行っていく。

### 8.3 生涯教育

技術者の生涯教育について検討する。技術士制度と関連して学会独自の資格制度も検討し、これに向けた教育カリキュラムの開発、普及方法を検討する。

### 8.4 その他

科学技術振興機構 (JST) から受託した「Web ラーニングプラザ」の教材制作を検討、実施する。

## 9. 国際活動

### 9.1 IEEE-Computer Society との連携・協力

#### (1) The 2005 Symposium on Applications and the Internet (SAINT2005) の開催

対象分野：Internet の Infrastructure と Applications

IEEE-CS と本会が founder (毎年共催) で第 5 回目の開催となる。

開催日：2005 年 1 月 31 日 (月) ~ 2 月 4 日 (金) , 開催地：イタリア (トレント)

参加者数見込み：150 ~ 250 人

General Chairs Bernd Kraemer (IEEE-CS) , Ben Wah (IEEE-CS)

Program Chairs 江崎 浩 (IPSJ) , Wojciech Cellary (IEEE-CS)

#### (2) 全国大会での IEEE-CS 会長招待講演

### 9.2 アジア地域学協会との連携・協力

#### (1) Korea Information Science Society (KISS) との連携・協力

双方の全国大会において交互に会長を招聘し招待講演を実施する。

#### (2) South East Asia Regional Computer Confederation (SEARCC) 活動への参加

SEARCC より要請のあった日本での 2006 年の総会開催の是非を検討する。

### 9.3 International Federation for Information Processing (IFIP) 活動への参加

#### (1) IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の年 1 回開催される総会 General Assembly (GA) および理事会 Council への参加

#### (2) 各 TC 日本代表の TC-meeting への参加

#### (3) IFIP 活動報告を年 1 回会誌に掲載

### 9.4 その他

#### (1) 運営主体研究会国際会議の開催 (2 件)

・ The 7th International Conference on High Performance Computing and Grid in Asia Pacific Region (HPCAsia2004)

開催日：2004 年 7 月 20 日 (火) ~ 22 日 (木) , 開催地：大宮ソニックシティ

・ 12th IEEE International Requirements Engineering Conference (RE'04)

開催日：2004 年 9 月 6 日 (月) ~ 10 日 (金) , 開催地：立命館大学

#### (2) The International Association for Pattern Recognition (IAPR) 活動への参加

年 4 回程度発行される News Letter の発送

#### (3) 他海外学会との協力関係継続

ACM , CSI (インドコンピュータ学会) , ASTI (フランス情報科学技術協会) との協定 (覚書) 継続。  
機関誌の相互発送等。

## 10. 規格調査活動

### 10.1 国際活動への積極的貢献

#### (1) 機会があれば Chairman, Convenor, Project Editor を積極的に引き受ける。

#### (2) 幹事国業務を担当できる人的資源を確保し幹事国業務担当能力の強化・安定化を図る。

## 10.2 学会試行標準の定着化

昨年度末までに5つの試行標準が公開され、ほぼ全ての小委員会から試行標準が出揃ったことになる。今年度は新しい分野における試行標準の候補の開拓に焦点を当て活動の幅を広げることを目指す。

## 10.3 電子政府への協力

昨年度は一昨年度に整備体系化した住基ネットの文字を搭載し、文字の専門家ではない人が目的とする文字を検索できる「文字情報公開システム」を開発して幾つかの省庁を対象に試験的な公開を実施したが、今年度は、戸籍統一文字を追加するとともに、試験的な公開をする省庁の範囲を広げて本格的公開を視野に入れた準備を進める。

## 10.4 運営基盤の強化

昨年度は6月より運営戦略アドホックを開催して当調査会の運営を長期的に安定させるための方策、規格賛助員の口数による権利の明確化、規格賛助員中心の運営の強化、などを検討したが、今年度は、規格賛助員が参加したいと思う事業の企画と推進、関係官庁への働きかけ、運営の効率化などを通して運営基盤の更なる強化を図る。

## 11. 支部活動

- (1) 支部総会、役員会、支部大会、電気関係学会連合大会等を開催する。
- (2) 支部活動への支援として、支部総会への本部役員派遣、講演会講師の紹介、周年行事等への助成、支部役員選挙の同時実施等を継続する。

## 12. 電子化

- (1) 学会マネジメントシステム
  - ・機能強化/ユーザビリティ改善による生産性の向上
  - ・Webからの会員情報登録更新を行うための認証システムの調査
- (2) 査読支援システムの構築
  - ジャーナル/トランザクションの電子投稿を含めた査読支援システムの2次開発(レビューア、メタレビューア支援機能)
- (3) 研究報告、シンポジウム論文の電子投稿受付システムの構築
- (4) イメージコンテンツのテキスト化の検討
- (5) 英文ホームページの充実
- (6) 本会の40年間に及ぶ刊行物(コンテンツ)は研究開発の貴重な資源であり、これを活用した「総合デジタルライブラリ」の構築を目指す。

## 13. 会議等の開催

### 13.1 第47回通常総会

平成16年5月20日(木)に、学士会館(東京都千代田区)で開催する。

### 13.2 理事会

年度間に11回開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

### 13.3 支部長会議

各支部活動の現況報告のほか、本支部間の連絡、要望等について審議、検討する。

## 14. 表彰等

### 14.1 功績賞

### 14.2 論文賞

### 14.3 研究開発奨励賞

### 14.4 山下記念研究賞

### 14.5 大会優秀賞，大会奨励賞

### 14.6 優秀教育賞，優秀教材賞

### 14.7 業績賞

### 14.8 学会活動貢献賞

このほか、名誉会員の選定、フェローの認証、感謝状の贈呈等を行う。

## 15. 関連学協会・日本学術会議等との連絡・協力

- (1) 日本学術会議との連絡・協力
- (2) 日本学術会議3研連役員と関連学会役員との連絡会議
- (3) 電気・情報関連学会連絡協議会への参加
- (4) 日本工学会ほか関連団体との連絡・協力

以上